

家のお手入れ

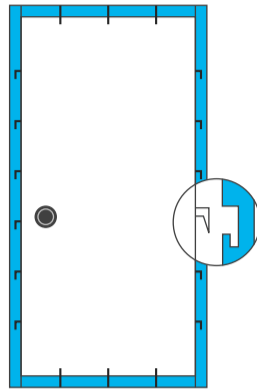


ふすまの種類

ふすまの張り替え方はふすまの種類によって若干異なります。まずは、家のふすまがどのような材質、構造でできているか、知っておきましょう。ふすまには、以下のように大きく分けて4つの種類があります。このほか、プレハブ住宅や中高層住宅では、芯にダンボールや発泡スチロール、ペーパーコア、枠にプラスチックやアルミなど新しい材質を使ったふすまもあります。

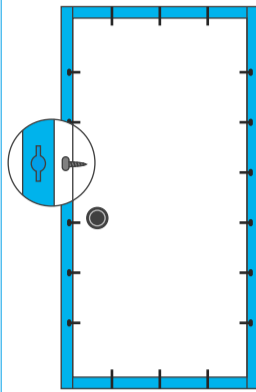
本ふすま (折れ合いクギ式)

左右の枠を折れ合いクギで止めているタイプで、スライドさせると枠をはずすことができます。上下の枠はクギ止めされている。



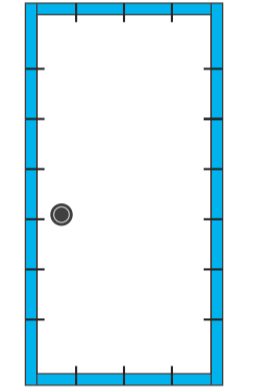
本ふすま (木ネジ式)

上下の枠はクギ止め、左右の枠は木ネジで止められている。枠をはずす場合は、折れ合いクギと同様に、スライドさせるようにする。



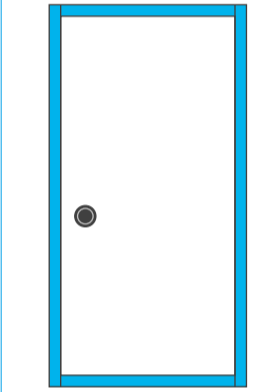
本ふすま (クギ打ち式)

上下左右の枠すべてがクギ止めされている。左右の枠にクギの頭が見えるので、ほかのタイプと区別が付きやすい。



板ふすま (戸ふすま)

叩くと板の音がするタイプで、枠ははずせない。廊下や洋室と和室の間などに使われていることが多い。



ふすまの張り替え

Part 1 アイロンを使った 張り替え方と破れの修繕

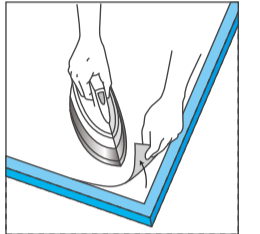
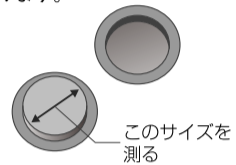
One Point Advice

引手も取り替えて イメージチェンジ

ふすまの張り替えと一緒に、引手も取り替えてみませんか。いろいろなデザインのものがありますが、古い引手の裏の凸部分の直径を測って、同じサイズのものを購入すればOK。柄が洋風のふすま紙の場合は、白い引手を使うと雰囲気が変わります。

はがすときもアイロンで

アイロンで張るふすま紙は、はがすときもスチームアイロンを使います。張るときと同じように、端からゆっくりアイロンを当てながら、少しずつ紙をめくっていき、きれいはがすことができます。

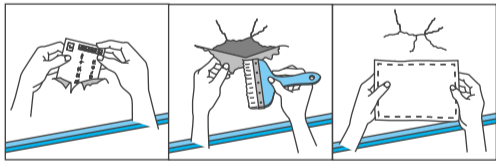


ふすまの補修

ふすまを張り替える前に、穴があいたり、破れたりしている箇所の補修を行いましょう。

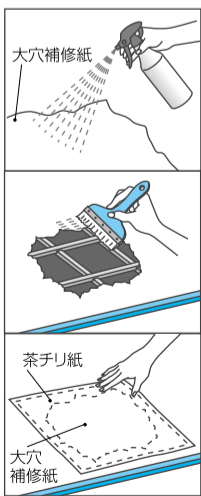
小さな穴の補修

破れたふすま紙の裏にノリをつけ、元どおりに張り合わせます。少し大きく破れている場合は、古い葉書か、同じような厚さの紙を破れ目より少し大きく切ったものを破れ目に差し込んでから、張り合わせましょう。その後、破れよりひとまわり大きく切った茶チリ紙の周囲5mmにノリをつけて、破れの上に張ります。



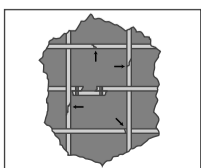
大きな穴の補修

骨が見えるほど、大きく破れている場合は、まず、破れてペラペラしている紙を切り取り、大穴補修紙(補修に使う厚い紙)を穴のサイズ、形に合わせて切り、霧吹きしておきます。その後、骨と穴の周囲にノリをつけ、大穴補修紙を張り、乾いたら、茶チリ紙を大穴補修紙よりひとまわり大きく切り、周囲5mmにノリをつけて張ります。



折れた骨の補修

骨が折れていても、そのままに戻せる場所は、ゼリー状瞬間接着剤でつけるようにします。折れて骨がなくなっている箇所は、残っている骨に補強材(割り箸や細工材)を、ふすまの厚みより出っ張らないように添わせ、ゼリー状瞬間接着剤でつけてから、糸を巻いてしっかり結んでください。骨の修理が済んだら、大きな穴の補修と同じ要領で、大穴補修紙と茶チリ紙を張ります。



アイロンで張るふすま紙で 張り替える方法

枠をはずさず、古い紙の上にスチームアイロンで張り付ける方法なので、初心者にも簡単。板ふすまに最適ですが、本ふすまにも枠をはずさずに張ることができます。(アイロンで張るふすま紙の中には、ここで紹介するものと取り扱い方が違うものもあります。説明書をよく見て確認してください)

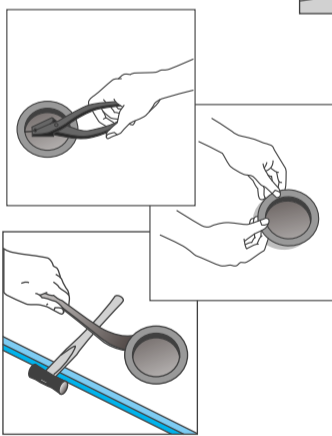
用意するもの

- アイロンで張るふすま紙
- 引手クギ抜き (ニッパーで代用も可能)
- 引手クギ
- カナヅチ
- 枠はがし (インテリアパール)
- スチームアイロン
- 延長コード
- カッター
- カッティング定規
- マスキングテープ
- クギ締め (大きめのクギで代用も可能)

2 引手ははずす

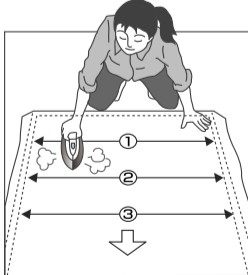
はずしたふすまを床など平らな場所に置き、引手をとめているクギの上下どちらかの1本の頭を引手クギ抜き(またはニッパー)でつまんで抜く。引手クギは1本はずれば、もう1本は、引手を持って引っ張ればはずれる。

引手のクギがしっかり入っていて、つかみにくい場合は、枠はがし(インテリアパール)をクギのある部分の引手の下に差し込み、カナヅチの柄などを差し込んで、テコの応用で少しこじ起こす。引手を戻すとクギの頭が浮くので、引手クギ抜きでつまみやすくなる。



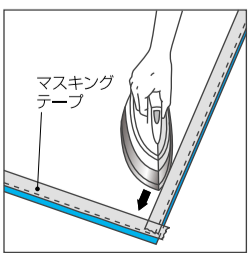
4 アイロンでふすま紙を張る

スチームアイロンを高温にし、下から順に中央から左へ、右へと全体にアイロンをかけていく。熱でノリを溶かして接着させる仕組みなので、ゆっくり動かすのがコツ。枠の部分は初めに指の爪で軽くきめ込みを入れておいて、その近くまでアイロンをかけをする。最後に周囲にアイロンをかけるので、多少、未接着の箇所が残っていてもかまわない。また、このとき手で触って引手のある部分を探し、枠からはみ出さないようにふすまの位置の番号を書き込んでおくことよい。



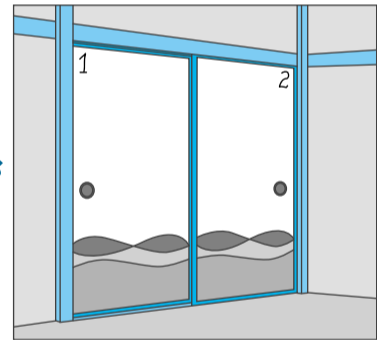
6 周囲にアイロンをかける

ふすまの枠には熱に弱いものがあるので、余分な紙を切り取った後、枠の目立たないところにアイロンのスチームを当て、変色しないかどうか確かめる。白く変色する場合は、マスキングテープを枠に張り、保護してから周囲にアイロンをかけるようにする。アイロンの先の丸みを使い、枠にそって、ていねいにかけていくのがコツ。



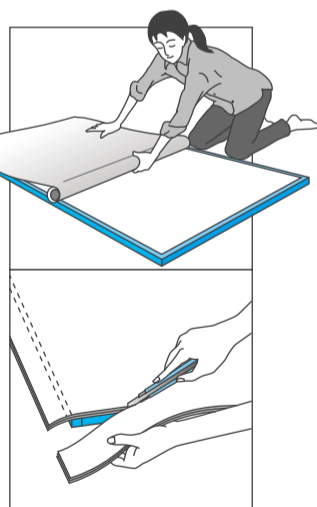
1 ふすまの位置を書き込む

張り替えが終わった後、ふすまを元通りの位置に入れ直すため、ふすまに鉛筆で番号を書き込んでおく。



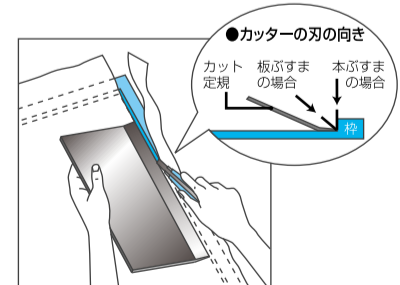
3 紙をふすまの上に広げる

紙が総柄や無地の場合は、そのまま紙の端をふすまの下枠の外側に合わせて、曲がらないように気をつけて、ふすまの上に広げる。柄のあるふすま紙の場合は、柄の高さを揃えるために、張る枚数のふすま紙を柄を合わせて重ね、ふすまの上に広げた後、曲がりを直し、柄の位置を決めて、下の部分を枠の外側で切ってから、一枚ずつ広げて張っていくようにする。



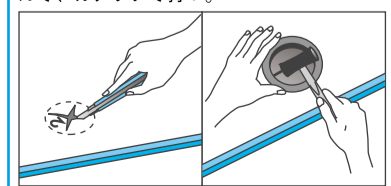
5 余分な紙を切り取る

枠の内側にカッティング定規を当て、ずれないように注意してカッターで余分な紙を切り取る。このとき、枠がはずれる本ふすまはカッターの刃を真下に向けて、枠がはずれない板ふすまの場合は、カッターの刃を枠に向けて切るようにする。



7 引手を取り付ける

手で触って引手のある場所を探して、カッターで十字に切り込みを入れ、引手のクギ穴が上下にくるようにして取り付けてから、クギを少し斜め下を向くように手でぐっと差し込んで、カナヅチで打つ。



8 引手をクギでとめる

引手のカーブがじゃまになってカナヅチで打ち切れない頭の部分は、クギ締めで打ち込むときれいに仕上がる。クギ締めがない場合は、大きめのクギの頭を引手クギの頭に当ててカナヅチで打ち込んでよい。

